

県立図書館等複合施設基本構想検討委員会
第1回検討委員会議事録

(概要版)

開催日 平成16年5月11日(火)

場 所 ザ・ホテル紫玉苑

議事の概要

「委員長」を委員の互選で選出後、委員長が「委員長代理」を指名した。続いて、「基本構想策定の考え方」、「県立図書館等複合施設のあり方について」について事務局が説明を行い、その後、自由な意見交換を行った。

協議の概要は次のとおり

(委員長)

どんな観点からでもよいので、発言をお願いします。

(委員)

「創・甲斐プラン21」に情報ハイウェイ、情報環境の整備について記載している。情報基盤の整備は、高度情報化に対応できる・できないの重要な問題となる。その点で、山梨県は、高度情報通信ネットワーク社会の形成のための基盤整備をどのように進めているか。

(県側)

本県の場合、県が所有する光ファイバー網を活用して県民や県内企業などが高速インターネットを利用できる環境の整備に取り組んでいる。これ以外にも、行政関係では防災行政無線を利用したネットワークも整備されている。

(委員)

現在でも生涯学習推進センターがあるとのことだが、新たな複合施設においてはこれも新しくする予定なのか、また、図書館との関係をどうするのか考え方があれば聞

きたい。

(県側)

それについても今回一緒に検討していきたい。

(委員長)

図書館と生涯学習推進センターの2つが同居することによって、相乗的な効果が期待されると理解してよろしいか。

(県側)

図書館機能、生涯学習推進センター機能、交流機能を一体化した複合施設として整備をしていきたい。

(委員長)

機能がオーバーラップするという意味で、図書館と現在の生涯学習推進センターとの組織上の再編もここでなされることを意味しているのか。

(県側)

それも含めて今後検討していきたい。

(委員)

建物自体は複合だが、機能はそれぞれ独立したものになるのか。それにより施設の共有や組織上の問題なども出てくる。また、生涯学習を推進する側では大学や社会教育施設の連携に取り組んでおり、そういうものがこの施設に活かされるとすれば県立図書館の機能を考える上にも影響してくるのではないか。

(委員)

本県の図書館の流れには、戦後から3つほど段階があったと考えている。

まず、学生が主となった図書館というものが昭和50年代頃まであった。

次に、60年代に石和町がスコレーセンターを建設し、複合化の流れができてきたと思う。その後に、玉穂町、白根町、昭和町、田富町など各町村でもこういう形になってきている。それ以前は、県立の図書館が機能的にも一番良いと思っていたが、その後徐々に市町村と県の図書館との格差が出てきているように思う。

複合化の流れは成るべくして成ったとも言える。

(委員長)

その他いかがですか。

(委員)

新しい施設ができた後に、今の生涯学習推進センターは無くなるという前提でよい。そうであれば、そのような機能も複合施設に含めなければならない。

建物は一体でも、図書館、生涯学習推進センターは別々という場合でも施設的には広くなり共通のホールを使ったりできるわけだから、それだけでも生涯学習推進センターの機能はかなり充実するだろうと思う。どういう方向でいくのか明確にしておいた方が今後話がしやすい。

(委員)

私共の生涯学習館は、殆ど9割以上の機能は図書館である。では、なぜ生涯学習館という名前が付いたのかというと、まず、学習館にはホールや研修室が設けられており、地域及び県・郡・市等の教育関係その他、地元の企業などの研修等に広く使われている。図書館であるが生涯学習をにらんだ設備ということで、名前がそのように付いたようだ。また、図書館機能の中にも生涯学習を含めたさまざまな行事等も含まれており、ただ本を貸し出すということではないということをご承知の通りだと思う。

(委員長)

ありがとうございます。その他いかがですか。

(委員)

複合施設に関しては、3点を考える必要がある。

1つは県としての役割、生涯学習推進センター・県立図書館どう考えるのかということ。もう1つは、21世紀という新しい社会、高度情報通信ネットワーク社会が到来する中で、図書館も生涯学習推進センターも今までとは違った役割を期待されているということ。国の中央教育審議会では新しい生涯学習のあり方について答申を出したが、その中では、地域の課題を解決できるような生涯学習のあり方、県立図書館のあり方などが強く訴えられている。従来の枠組みだけではなくて、例えば職業能力の開発、地域の産業振興、子育て等について踏み込んだ形で、生涯学習として取り組んでいく必要があるということを出している。こういった時代の中で、県立図書館をこのような形で作るのは多分初めてだと思う。山梨県として、本当に新しい時代をにらんだ県の図書館、生涯学習推進センターをどのように構想していくか、できれば、これからの新しい日本の方向を示すようなものを打ち出していく必要があるのではないかと感じている。

(委員長)

大変ありがとうございました。

委員会も最後には報告書を取りまとめ知事に提出することになる。今委員が発言したとおり、新しく統合して作るのですから、どういう基本的な考え方・理念があっ

こうなったかという、そこから話しを出発せざるを得ないを考える。ただ、この点は今日答が出るテーマではないが。

(委員)

ただ、生涯学習というと一般的に全部含めてしまう虞があるので、ある程度整理しておく必要がある。

(委員長)

本県の場合は、図書館協議会と生涯学習審議会も事務局はいずれも企画部門だと考えてよろしいか。

(県側)

生涯学習審議会は企画部門、図書館協議会は教育委員会である。

(委員長)

その連携で問題はないようにしないといけない。

(県側)

相互に連携を図る上で、庁内にも検討会を設置し、調整を図っている。

(委員長)

そうですね。どんな観点からでも結構ですからご発言をお願いします。

(委員)

資料について伺いたい。山梨県の奉仕人口が高いとあるが、これはどういうふうに分

分析されるか。

(県側)

奉仕人口と職員数から算出した結果です。当然人口が多いところは職員1人当たりの奉仕人口割合は大きくなり、山梨県のように奉仕人口少ないところはやはり手厚くできるような状況になるものと思う。今回は例示なので、その辺についても今後議論していただきたい。

(委員)

委員の皆様のお話を聞き、感じたことは、今回の構想づくりは、本当に山梨県の「知のコミュニティ」というか、コミュニティづくりを知というものを中心にして再構築していくという作業だと思う。私は、大学でやってきたことの中で、県の様々な生涯学習の機関等にも協力いただき、個人的にも色々な講座の講師を務めさせていた

だいた。その中で感じたのは、「知のコミュニティ」というときに、知が集積されている場所として、やはり図書館というのは非常に大きな場所であるということ間違いなく思う。また、そこに集積されている知を再構築したり、実践していく場として、県の生涯学習推進センターや企画部の方たちがやってこられた活動は、かなりの大きな実績があるということも間違いなく思う。さらに、民間でやられてきた様々な知の実践の場、また大学というこれまでは少し閉鎖的な空間の中でのみ集積されてきたもの、そういうものを1つの空間に集めるということは、それ自体非常に意味がある。そうした個々に色々な実りをつけてきたものが、おそらく補強されるような形になって、より活性化していくと思われる。実感としては、県民の皆さんはそういうものを求めている、そういうものへの志向とか熱意が県民の皆さんの中にあると思う。そのような県民の要望とか利便にかなう場として、これまで個別に活動し、実績を積み上げてきた段階では難しかったような活動も、この施設の実現を通して可能になるよう、非常に期待している。様々な課題はあるかと思うが、ぜひ実現に向けて「知のコミュニティ」が早く完成するとういとお考える。

(委員長)

ありがとうございました。期せずして「知のコミュニティ」という言葉が使われた。知の実践、知の実り、知の蓄積というふうな「知」をキーワードにした発言があったが、そういうキーワードが重要である。

ところで、ここまで議論されていないのが集客(交流)施設について、もう少し説明をお願いしたい。

(県側)

いわゆる学習などを通じて県民が交流できる場を提供するためには、おそらくこういった場が重要になってくるだろうと考えている。例えば、仙台市の「メディアテーク」という施設においては県民が自発的に交流できる場を非常に重要視している。そういう意味でも、新しい複合施設の中には当然そのような機能が必要になるであろうと考えている。

(委員長)

非常に面白い。図書館や生涯学習推進センターに関わらない人でも、使えるような設備にもなる。図書館や生涯学習推進センター機能とオーバーラップする部分もあるが、全くしないような仕方もあるということがあればなおいい。

(委員)

私は、基本的には生涯学習推進センターの機能を一方に考えておいた方がいいと思っている。従来の図書館だけでは不十分だという点については大賛成だ。

(委員)

私も、今の図書館を考えた場合、図書館というところは静かに本を読むというイメージが強いが、生涯学習ということを考えればやはり人の交流が大切だと思う。この施設に来たから「ついでに本を読んでいこう。」というようなことがあってもいいと思う。

(委員)

駅前に県立の図書館ができるということは全国で初だと思う。そういう意味では非常にいい施設だろうと思う。一番近いところにあるということは画期的ですから、非常に夢が広がるのではないか。

(委員長)

今日はここまでにして、取りまとめは自由討論ということでできませんが、今後更に突っ込んだ議論をしていきたい。

閉 会